

アグレッシブNK細胞白血病の1例

地方独立行政法人神戸市民病院機構 神戸市立医療センター西市民病院

臨床検査技術部¹⁾, 同病理診断科²⁾

村井志織(CT)¹⁾, 吉田澄子(CT, IAC)¹⁾, 常本志帆(CT)¹⁾, 小出優希(CT)¹⁾, 岡村俊佑(CT)¹⁾, 弘田大智(CT, IAC)¹⁾, 中彩乃(CT)¹⁾, 山下展弘(CT, IAC)¹⁾, 勝山栄治(MD)²⁾

【はじめに】

アグレッシブNK細胞白血病 (aggressive NK-cell leukemia :ANKL) は成熟型のNK細胞に由来すると考えられており, 一般的に超高悪性度腫瘍とされている。わが国での発生頻度は悪性リンパ腫全体の1%未満とされ, 極めてまれな腫瘍である。今回我々は, 胸水細胞診にて異型細胞を認め, 精査の結果, ANKLと診断された症例を経験したので報告する。

【症例】

30歳代, 女性。2か月前より腹部膨満感, 下腿浮腫を自覚していたが, 増悪し, 呼吸苦が出現したため, 当院の救急外来受診となった。来院時に施行されたCTで両側大量胸水を認められたため, 胸腔穿刺し, 胸水細胞診が行われた。

【細胞所見】

パパニコロウ染色にて, 小型リンパ球を背景に, 核腫大や核形不整を示す異型細胞を孤在性に認めた。ギムザ染色では, 核腫大を示す好塩基性細胞がみられた。悪性を示唆したが, 診断には至らなかった。

【経過】

胸水フローサイトメトリにてCD2(+), CD3(-), CD56(+であった。他院に転院し, 転院先にてANKLと診断された。その後, 5ヵ月で死亡した。

【まとめ】

呼吸苦を契機に発見されたANKLの1例を報告した。